

連載…

No. 3

モンテッソーリ教育ってなあに?

2011年6月

○日常生活の自立の援助について

私たちは、誰でも子どもが自由にのびのびと育てて欲しいと願っています。
 そして、また、子どもがいつか大人になったとき、「自分で考え、判断し、行動する」
 ことができる自由な大人になって欲しいと願っています。
 自由であることは、人間が幸せに生きるための第一条件です。
 そのための第一歩が**日常生活の自立**なのです。

日常生活

服の着脱、スプーンやはしで食事をすること、ナイフやハサミで切ること、あいさつを上手にすること……
 など数え上げたらきりがありません。

☆子どもは「できない」のではなく「やり方」がわからないのです。



「どうしてできないの？」
 「何回言えば分かるの？」
 「こうするの!!」

子どもにマイナスなことばをかけていませんか？

毎日の子育てにおわれていると、マイナスなことばがけをしてしまうことも多いかもしれませぬ。

子どももその大人の口癖に慣れっこになってしまい、反射的にその場かぎりの反応をするだけになり、ちっとも良くありません。

子どもは、本当に「できない」のでしょうか…?

☆人間には、随意筋と不随意筋という二種類の筋肉があります。
 随意筋は自分の意志で動かす筋肉です。ところが、子どもは、まだ自分の思ったとおりに随意筋を使う事ができないのです。
 それを知らない私たち大人は、大人同士で教えるときと同じように、さっさとやってしまっ
 て、「分かったでしょう」とすれば、通じると錯覚しています。

子どもは、「やりたい」のだけれどもどのようにすればできるのか分かりません。
 そこで、私たち大人は、どうすれば自分でできるか「やり方」を教えてあげましょう。
 子どもに「やり方」を教えるには、「して見せる技術」が必要です!!

☆「して見せる技術」とは……

言葉で教えるのではなく、黙って、ゆっくり、行動で教えるのです。

- ① 子どもがやりたがっている活動を一つだけにする。
- ② その一つの活動を構成している諸部分を分析する。
- ③ 必要不可欠の部分だけ取り出してゆっくり、はっきり、順序立てておこなう。
- ④ その行為を子どもの前で「してみせる」。
- ⑤ して見せた後に、簡単に言葉で説明する。



そうすれば、子どもはよく分かって出来るようになるでしょう。

○幼稚園のお部屋の中の日常生活の訓練の為の教材のねらいは……

子どもの筋肉を正常に発達させる ことです。

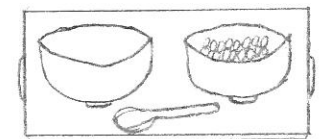
・自分の思い通りのことができるためには、まず、自分の体を思い通りに動かすことから始まるのです。

いろいろな行動の自立が進んでいくと、精神的にも自立していきます。

日常生活<あけうつし(米すくい)>

準備：容器2、スプーン、トレー、米

- ① スプーンを持つ。
- ② スプーンで容器の米をすくう。
- ③ すくった米をもう一方の容器にあけうつす。
- ④ ②→③を繰り返す、すべての米をあけうつす。



☆初めはうまく入れられず、こぼしてしまう事も多く見られますが、何度も繰り返すように上手に空けうつすことができるようになります。

※他にも小豆、つまようじ、おはじきなど色々なものであけうつしのお仕事ができます。